

研究課題 (テーマ)		学習相談室による物理教育の充実	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	教授	福原 忠
研究結果の概要			
<p>工学部基礎科目として物理学（力学・電磁気学）を考えると、いたずらに講義内容を軽減することなく、先の学習に必要な内容を理解をさせた上で、適正な合格率を維持することが必要である。</p> <p>教養教育センターの物理学担当者は、平成18年に数学・物理学演習の導入、19年に本プログラム（学習相談）の導入と努力を重ね、平成17年度以降、講義内容を削減することなく、9割前後の学生を再履修させることなく合格に導いてきた。</p> <p>しかしながら、このところの物理学Ⅰ・Ⅱを必修とする学科における定員増に伴って再試験対象者は増加し、相談員の負担増大による面接指導の質の低下が懸念された。それゆえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導のポイントのレジュメ作成、および、相談員の事前学習の徹底 ・面接指導時間の確保 <p>を行い、面接指導の質の維持に努めた。その結果、下図の通り、令和3年度の物理学Ⅰにおいても約96%の学生を合格に導いた。</p>			
今後の展開			
今後も、学習相談室の活動を通じて、本学の基礎教育の充実、および、大学の活性化を図ってゆく			